

肺小細胞癌の血管新生を分子標的とした新世代治療法の開発

16590730

平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金
(基盤研究 (C)) 研究成果報告書

平成 18 年 5 月 29 日

研究代表者

大崎能伸

旭川医科大学医学部講師

<はしがき>

科学研究費によって行った研究結果により、肺小細胞癌の治療のために、EGFR 系と VEGFR 系が分子標的治療の標的になる可能性が示された。増殖が速くて転移が早い肺小細胞癌で、増殖阻害と腫瘍血管新生阻害を目的とした分子標的治療が成立する可能性があることは、治療の手段を構築する上で有用な情報であると思われる。

研究組織

研究代表者 大崎能伸 旭川医科大学医学部講師

交付決定額

	直接経費	間接経費	合計	(千円)
平成 16 年度	1,800	0	1,800	
平成 17 年度	1,400	0	1,400	

研究発表

(1) 学会誌など

T. Takahashi, S. Osanai, H. Nakano, Y. Ohsaki, K. Kikuchi. Doxapram stimulates the carotid body via a different mechanism than hypoxic chemotransduction. *Resp Physiol Neurobi.* 147:1-9, 2005.

松村智恵子, 土屋佳英, 田崎武信, 大崎能伸. 慢性喘息の管理. 平成 16 年度創薬等ヒューマンサイエンス総合研究推進事業, 2005, 46-49.

三木文雄, 大崎能伸, 他. 下気道感染症に対する ceftazidime を対照とする cefozopran の市販後臨床試験. *日本化学療法学会雑誌*, 53:526-556, 2005.